

## ◇ご案内

ご旅行代金 313,000円

(お二人部屋を御二人で利用する場合のお一人様の金額です。シングル希望の場合は追加料金がかかります。)

◇利用航空会社 中国国際航空 エコノミークラス

◇利用ホテル ハイラル : BAVARIA REGENT HOTEL HAILAR

阿木古朗鎮: 中安賓館(シャワーのみ)

満州里 : 友誼賓館

札幌 : ルートイン札幌駅前北口

◇お食事: 朝食7回、昼食5回、夕食5回

◇添乗員: 同行します

◇日程に明示された観光を含みます

◇最少催行人員 15名

◇締切 7月10日 ※ロシア側の許可を取るため締切が早くなります



ツアー代金に含まれないもの

◇札幌までの交通費、成田からの交通費、◇空港税、燃油サーチャージ等 (2019年5月24日現在¥6,000前後)

◇ロシアビザ代 実費、◇手配料・及びビザ取得代行料 ¥13,140

## 中露国境紀行～第4弾～草原の国境を巡る

中露国境紀行、第4弾はモンゴルの草原を廻ります。これまで国境地域と同様にこの地でも、日本(満州)とソ連に関わる戦跡が目につきます。ハイラルからノモンハンへと「砦」とされた時代を展望します。

大戦後、新生中国とソ連は軍事的緊張を経た時期もありましたが、やがては地域はゲートウェーへと生まれ変わります。ペレストロイカ、ソ連解体と中国の「改革・開放」が更に国境を揺さぶります。

かつての東清鉄道を横目で見ながら、今や大都会となった満州里からザバイカルスクへ。この地域でもロシアと中国のコントラストが目を引きまします。そしてここでも国境問題。ハバロフスク近郊のヘイシャーズ島と同じく、最後まで係争地として残っていたアバガイト島近辺と、国境を分かつアルゲン川を目指します。

過去3回の旅のシーンと重なりながらも、ロシア極東・黒竜江省の国境地域とは趣の異なるザバイカルリエ地方・内モンゴルの国境の旅にあなたを誘います。

(岩下明裕先生)

今回はいよいよ草原の国境、ノモンハンへ参ります。

今年も木村崇先生、岩下明裕先生の御二人が同行して下さいます!

今年はまず北大に集合し、岩下先生のレクチャーを予定しています。

その後秋の北大キャンパス内をミニ散策します。

9月10日札幌から北京を経由し一路ハイラルへ飛びノモンハンへと向かいます。

今年はノモンハン事件から丁度80年にあたります。

わずか4ヶ月で日本側18,000人、ロシア側20,000人以上ともいわれる両国にとり大きな犠牲を伴ったこの事件は日口の大規模な戦争であり、またこの戦いで日本がロシアに敗北したことにより、ヒトラーのポーランド占領から始まる第2次世界対戦への道を開く事になった、歴史的には大変大きな事件となったと言われています。多くの犠牲を伴ったノモンハン事件は対ソ連軍の正確な情報に基づく戦略ではなく、関東軍の現場の独走であったことも多くの書物により明らかにされています。

どこまでもつづく草原の国境をめぐり両国が戦った9月に現地を訪れます。ノモンハンの記録を読むと夏の間は虫に襲撃されたとありますが、9月のノモンハンには秋を迎え気温も6℃から20℃位。緑の草原も黄色く変わる頃となります。そして9月は戦争終結を迎える時期です。ただ草が、あるいは砂の大地が果もなく広がる大草原にいったい何のために戦わねばならなかったのか……。そう誰もが思う……。多くの手記にそうあります。いくつかの書物を読み、是非その場に立っていただければと思います。

締切が早く、誠に恐縮です。

ご検討の程、どうぞ宜しくお願い致します。

株式会社エムオーツーリスト団体営業室 担当浜桜子

電話: 03-5733-5595